



社会を律する法律は、 人の手で守られ、実行されていく

東京地方検察庁(東京地検)

検察事務官

<https://www.kensatsu.go.jp/kakuchou/tokyo/index.html>

日本大学

法学部 法律学科 卒業

神保 大輔さん

検察庁



自立と自律

私が法律に興味を持ったのは小学校高学年のときでした。当時の担任の先生から「自立と自律」という概念を教わり、検察庁へ関心を持ちました。ちょうど同じ頃に、HEROという、検察官をテーマにしたドラマを放送していたことも、法律や検察庁への興味を持ったきっかけでした。大学選びでは、法律を学べる場所を探して、縁のあった日本大学に進学しました。

本当のライバルは少ない

大学に入り、法学部法律学科で実際に法律を学んでいく中で、改めて法律に関わる仕事をしたいと思い、公務員を目指しました。3、4年次では公務員講座を受講。国家公務員試験対策の勉強などをして就職に備えました。公務員講座では印象的な講師に出会うことができました。特に記憶に残っているのは「公務員試験は受験者が多いので倍率が高いが、実際にスタートラインに立っているのはほんの一部」という言葉です。実際、公務員試験の勉強



は年単位で継続的に取り組むものなので、準備万端で試験に臨める人は多くありません。

常に新鮮な気持ちで 仕事できる

私は現在、東京地方検察庁事務局人事課で、新規職員の採用などを担当しています。現在の部署に異動する前は捜査部門や検務部門に在籍し、事件の最前線で仕事をしていました。検察事務官は、仕事の幅が広いので、毎年同じ仕事をしている人はほとんどいません。そうした、常に新鮮な気持ちで仕事ができること、正義感を持って仕事に取り組めることが検察事務官の魅力と言えるでしょう。

適切なコミュニケーション

柔軟かつ積極的な姿勢で仕事に取り組める人は、検察事務官として活躍できるでしょう。検察事務官の仕事は一人で完結させることができるものではありません。多くの人と柔軟に関わり、自分から様々な情報を集める積極性が必要です。行動の原動力として、正義感があればなおこ

の仕事に向いているでしょう。仕事の上で接する相手は、事件の被害に遭われた方から被疑者、目撃者等まで様々です。その場に応じて相手と適切なコミュニケーションを取ることが大切です。私の場合、大学時代に母校のバスケットボール部で教えていた経験が現在の仕事に活かしています。どうすれば課題が解決するか、相手の目線に立って物事を考え、言葉にする力がつきました。

挑めば学べる

自分が興味を持ったことに積極的に挑戦してください。就職する前には自分を振り返る自己分析を行うこともあると思います。何にも挑戦していなければ、何も語れるものが出てきません。直接仕事と関わりのある専門的なことは就職してからでも学べます。学生時代に様々な経験を積むことは職業だけでなく、人生において大切な経験となるでしょう。私自身、大学では刑事事件を扱う現職とは直接関係のない民事訴訟法を学びましたが、視野が広がる経験になりました。メリハリをつけて継続的に挑戦、学習してみてください。

多様な分野でリーガルマインドを
発揮できる人材を育成

【学務部入学課】03-5275-8001

LINE @nihon-u.nyushi



自主創造
日本大学

